

平成22年度

特別会

建設産業常任委員会

公共下水道事業特別会計

公共下水道事業特別会計の歳入及び歳出決算額の状況
(千円)

項目	本年度	対前年度増減額
歳入決算額	775,752	33,400
歳出決算額	763,127	37,562
差引残額	12,625	

審議内容

下水道の接続率が低い(45%)のは接続工事費が約30万円と高いのでは、接続率を大幅に上げるために工事費を安くする方策をとるべきではとの質疑に対し、見積もりは20万~30万円となっているとのこと。接続率が上らないのは単独浄化槽が定着しているからとの指摘があり。公債の返済期間と残高については、返済期間は30年、残高は37億円、ピーク時には約50億円の見込みとの答弁。

土地区画整理事業特別会計

土地区画整理事業特別会計の歳入及び歳出決算額の状況
(千円)

項目	本年度	対前年度増減額
歳入決算額	1,005,526	259,810
歳出決算額	831,157	253,242
差引残額	174,369	

審議内容

予備費の補正で1億6,861万8千円追加計上されているが、そのまま不用額になっている。それは保留地処分金を事業執行のため計上してあったが地権者の同意が得られず未執行となったためとの答弁。



水道事業

(千円)

事業収益	842,880
事業費用	757,118
当初純利益	85,762

審議内容

他会計への貸出額は、国保会計に4億円、下水道に2億円あり。純利益が8,500万円と大幅に伸びているのは、事業への出資が低かったことも一要因で、純利益が持続できるかは、今後2~3年の動向を見極めなければならないとのこと。



計決算

認定!

文教厚生常任委員会

国民健康保険特別会計

国民健康保険特別会計の歳入及び歳出決算額の状況
(千円)

項目	本年度	対前年度増減額
歳入決算額	4,190,272	427,456
歳出決算額	4,852,980	284,416
差引残額	-662,708	

審議内容

長期の経済不況による雇用不安や生活困窮により保険料の滞納傾向が強いなかで、窓口相談の充実や口座差押さえ(17件・108万円)等に徴収努力が伺える。平成16年度以降続いている赤字決算に関し、平成17年度に1億8,500万円、今回2億361万6千円を一般会計から補正で繰り入れたにもかかわらず、6億6,270万8,477円の赤字決算となっている。数字上は前年度より改善されたかに見えるが、一般会計より繰入補充したからであり、このままでは制度そのものが崩壊する恐れがあり、町当局が早急に具体的な対策を提示すべき。

老人保健特別会計

老人保健特別会計の歳入及び歳出決算額の状況
(千円)

項目	本年度	対前年度増減額
歳入決算額	2,345	-8,043
歳出決算額	2,345	-9,891
差引残額	0	

審議内容

制度の廃止に伴う精算最終年度のための決算処理である。



介護保険特別会計

介護保健特別会計の歳入及び歳出決算額の状況
(千円)

項目	本年度	対前年度増減額
歳入決算額	1,595,194	112,888
歳出決算額	1,548,942	103,612
差引残額	46,252	

審議内容

黒字決算となっているが、保険料の不納欠損額が864万2,200円、収入未済額1,838万2,920円となっている。徴収体制の努力は認められるが、緊急雇用対策事業は平成22年度が最終年度であり、また、保険料は2年で時効となることからすると、町単費でも徴収対策をしっかりと取り組む必要があるとともに、税務課との密な連携もしっかりと取り組んでいく必要がある。

後期高齢者医療特別会計

介護保健特別会計の歳入及び歳出決算額の状況
(千円)

項目	本年度	対前年度増減額
歳入決算額	163,025	112,888
歳出決算額	159,484	103,612
差引残額	3,541	

審議内容

不納欠損額7万6,686円は、この制度が平成20年度からスタートし、保険料の時効は2年なので今回が初めてである。内訳としては、死亡3名、転出3名、生活保護1名、行方不明1名の計8名。収入未済額312万7,761円は、納め忘れのケースが多く、通知等すれば、約70%は納めている。この制度の事業主体は広域連合で、市町村の事務は保険料の徴収と後期高齢者健康診査業務等である。